政党システムの周縁と外側
西欧急進右派ポピュリズム政党の動員基盤

Online Appendix

Appendix A: 使用したデータ (CSES)に関する説明

Comparative Study of Electoral Systems (CSES) は、世界各国で行われた選挙調査において同一の質問を行うことにより比較可能性を担保している[1]。2015年から2021年にかけて行われたModule5は外国人など外集団への態度や、エリートへの態度を測定している。

Appendix表(1) 分析の対象となる国の選挙及びそれぞれの政党ファミリー一覧 (CSES5)

政党ファミリーはThe PopuList 3.0及びManifesto Project Dataset (version 2024a) をもとにPRRPs, 社会/社民, 自由, 保守/キリ民, 緑の5種類に分割している。PRRPsはThe PopuList 3.0において極右かつポピュリスト("Populist" = 1, "farright" = 1)と指定されたものを含む。社会/社民はLEF(社会主義政党)・SOC (社会民主主義政党)が、保守/キリ民は CHE (キリスト教民主主義政党)・CON (保守主義政党)が統合されたカテゴリーである。また、簡便化のために、一部の国にしかない政党ファミリー(NAT = ナショナリスト、AGR = 農業政党、ETH = 民族/地域主義政党、SIP = 単一争点政党、DIV = 選挙連合) は分析のサンプルから除外した。

PRRPsの指標として、The PopuList 3.0を用いた主な理由は、コーディングの定義が、本稿の定義である移民排外的なポピュリスト政党という枠組みに沿っていることによる。またデータセット自体は、急進左派ポピュリズム政党をも同様の枠組みにおいて扱っていること自体も、本稿の棄権者動員可能性に関する論理に沿った検証を可能とする。ただし、極左に関しては、研究により、分類上の重複が見られることはあるが、異なる先行研究の潮流に位置付けられる上、ポピュリズムの原義が異なる可能性があること、いずれの極左政党も明白に経済的に左の立場をとり、文化軸上の立場にヴァリエーションがあるため、「グローバル化の敗者」の動員理由が異なると考えられることから本稿では扱わない。

政党の略称はCSES5 codebook part3の記載に従った。尚、専門家コーディングにおいて5つの政党ファミリーに該当しないとされている政党はここでは記載していない。

また、調査の対象となるのは西欧諸国であるが、そのうち、アイルランドにはPopuListにおいてPRRPsとして規定される政党がなかったことから、フランスは議会選挙の投票行動に関する変数が測定されていなかったために、サンプルから除外した。

[1] CSESデータは以下のリンク (https://cses.org/)よりダウンロードできる。

Online Appendix PRRPsの動員基盤

国	年	政党(政党ファミリー別)				
		PRRPs	社会/社民	自由	保守/キリ民	緑
オーストリア	2017	FPO	SPO	NEOS	ÖVP	GRUNE PILZ
ベルギー	2019	N-VA VB PP	sp. a PVDA PS PTB	Open-VLD MR	CD&V cdH	Groen Ecolo
デンマーク	2019	DF NB	SD SF EL A	V RV LA	KF KD	
フィンランド	2019	PS	SDP VAS		KOK KD	VIHR
ドイツ	2017	AfD	SPD	FDP	CDU-CSU	Grüene
イギリス	2017	UKIP	Lab	LD	Con	GP
ギリシャ	2015	XA ANEL	Syriza KKE To Potami LAE	EK	ND	
イタリア	2018	LN FdI	PD LeU Insieme	+E	FI NcI-UdC CP	
オランダ	2017	PVV FvD	SP PvdA DENK	VVD D66	CDA CU	GL
ポルトガル	2019	CH	PS BE CDU	IL	PPD/PSD CDS-PP	PAN LIVRE
スウェーデン	2018	SD	SAP V	L	M, KD	MP

Appendix表(2) CSESの変数に関する説明

変数番号はCSES5上での番号を示す。なお、全て昇順となるように、逆転項目は反転させた。質問文等、詳細に関しては、CSES module5 codebook (part2)を参照すること。また、PRRPsのコーディングに使用したPopuListデータセットについては(Rooduijn et al., 2023)及び以下を参照。

Online Appendix PRRPsの動員基盤

Matthijs, R., Pirro, A. L. P., Halikiopoulou, D., Froio, C., van Kessel, S., de Lange, S. L., Mudde, C., & Taggart, P. (2023). The PopuList 3.0: An Overview of Populist, Far-left and Far-right Parties in Europe [dataset].

変数名	変数番号および処理	詳細	記述統計
今回の投票行動	E3012_LH (投票参加)・E3013_LH_PL (投票先政党)	選択肢に存在する政党及びその政党に所属する政党に所属しない候補者への投票、あるいは棄権以外の回答は、サンプルから除外した。 なお、政党リストを用いた選挙を行わないイギリスに関しては、選挙区で投票した候補者の所属政党を参照とするべくE3013_LH_DCを用いた。	棄権:10.4% 保守/キリ民:19.8% 社会/社民:30.7% 緑:6.6% 自由:11.3% PRRPs:11.5%
前回の投票行動	E3014_LH (投票参加)・E3015_LH_PL (投票先政党)	なおイギリスに関しては上記と同様の理由からE3015_LH_DCを用いた	棄権:10.3% 保守/キリ民:20.6% 社会/社民:34.3% 緑:6.5% 自由:10.8% PRRPs:9.6%
移民変数	E3005_3・E3005_4・E3005_5	各変数の平均	平均:2.96(sd = 1.00)
反エリート志向	E3004_2・E3004_3・E3004_4・E3004_6・E3004_7	各変数の平均	平均:3.05(sd = 0.94)
民主主義満足度	E3023		平均:3.28(sd = 1.25)
政治関心	E3001		平均:2.78(sd = 0.86)
左右イデオロギー	E3020		平均:5.00(sd = 2.43)
性別	E2002	男性か女性かで2値に分類した。それ以外の回答を行った回答者は分析から除外した	女性51% 男性49%
年齢	E2001_Y	35歳以上かそれ未満で2値に分類した	35歳未満:20.2% 35歳以上:79.8%
教育程度	E2003	ISCED (国際標準教育分類) に基づ	低:19.1%

		き、3段階の順序変数を設定した。 低:0 (就学前教育のみ),1 (初等教育),2 (前期中等教育) 中:3 (後期中等教育), 4 (中等以降高等以前教育), 5 (短期高等教育) 高:7(学士レベル), 8(修士レベル), 9(博士レベル)	中:47.1% 高:33.8%
失業者	E2006	失業しているか否かで2値に分類した	失業:3.9% それ以外:96.1%
都市化程度	E2022		平均:2.22(sd = 1.11)
出生国	E2017	国内で生まれたかどうかで2値に分類した	国内生まれ:84.8% 国外生まれ:15.2%

Appendix B: 使用したデータ (LISS)に関する説明

Longitudinal Internet studies for the Social Sciences (LISS)は、ティルドルフ大学に拠点を置く非営利・独立の研究機関Centerdataが2007年から実施しているパネルデータである[2]。本パネルは中央統計局 (Statistics Netherlands) が提供する情報により回答者を抽出しているため、高い代表性を確保している。

LISSでは政治的行動・政治態度について1年ごとに繰り返し同じフォーマットで尋ねており、直近選挙の投票先についても設問があるため、前回投票先の変数を今回選挙時点ではなく前回選挙時点で測定できるという利点を持つ。本稿では、2010年、2012年、2017年、2021年の議会選挙が行われた直後の調査を使用して各回の投票行動を測定している[3]。

Appendix表(3) LISSデータの使用変数に関する説明

変数番号はLISS codebook上での番号を示す。(Background Variables)と記載がある変数はCore Study "Background Variables" より取得した。その他はCore Study "Politics and Values"より取得した。なお、全て昇順となるように、逆転項目は反転させた。

変数名	変数番号および処理	詳細	記述統計

[2] 詳細は(Scherpenzeel & Das, 2010)及び以下のリンク (https://www.lissdata.nl/) を参照のこと。尚、分析に使用したデータは2024年4月20日にダウンロードした。

[3] 2006年選挙 (2010年選挙時点における「前回選挙」)の投票行動は、2007年末に行われた第1回目の調査において測定しているため、選挙時期と回答時期の間に1年程度のラグがあることに留意されたい。

Online Appendix PRRPsの動員基盤

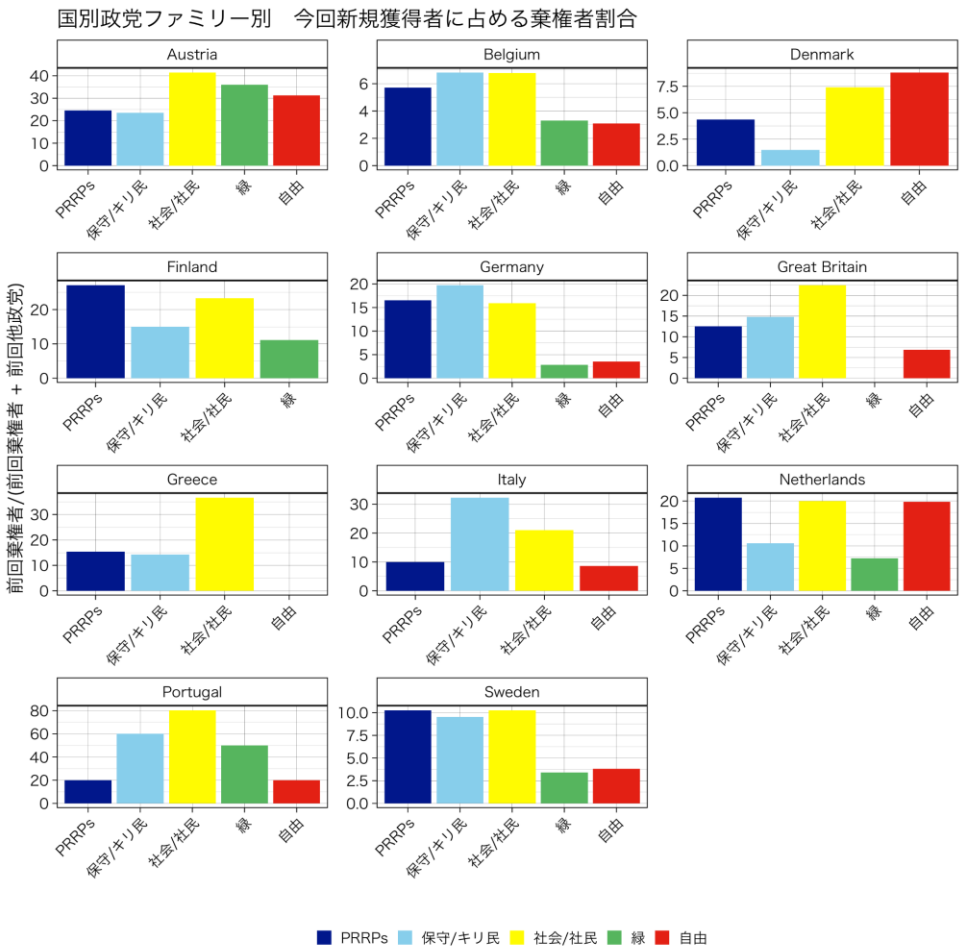
投票行動(今回/前回)	053 (投票参加)・054, 169,207,307(投票先政党)	政党に所属しない候補者への投票か白票、投票あるいは棄権以外の回答を行った有権者に関しては、サンプルから除外した。 政党ファミリーの分類はCSESで行ったものをそのまま踏襲している。	棄権:13.3% 保守/キリ民:16.3% 社会/社民:24.3% 緑:5.9% 自由:26.3% PRRPs:8.4%
EU態度	105	「欧州統合はもっと進展すべきだ」「すでに行き過ぎだ」という意見のどちらに賛成するか、5点尺度で測定している。さらなる欧州統合に賛成するほど点数が高い。	平均:2.53(sd = 1.15)
移民変数	104, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123	(Lancaster, 2022) の分類に基づき、項目反応理論 (IRT)の段階反応モデルを用いてIRTスコアを作成し、移民変数として使用した。	平均:-0.04(sd = 0.92)
政治的信頼	013 (政府),014 (議会),018 (政党),017 (政治家)	LISSでは反エリート志向変数は測定されていないため、類似変数として政治的信頼をモデルに投入した(Geurkink et al., 2020)。項目反応理論 (IRT)の段階反応モデルを用いて、IRTスコアを作成し、移民変数として使用した。	平均:-0.012(sd = 2.21)
民主主義満足度	044	0-10の11点尺度	平均:6.08(sd = 1.95)
政治関心	012	1-3の3点尺度	平均:1.99(sd = 0.61)
左右イデオロギー	101	0-10の11点尺度	平均:5.35(sd = 2.07)
性別	geslacht (Background Variables)	男性か女性かで2値に分類した。それ以外の回答を行った回答者は分析から除外した	女性54% 男性46%
年齢	leeftijd (Background Variables)	35歳以上かそれ未満で2値に分類した	35歳未満:20.8% 35歳以上:79.2%
教育程度	oplzon(Background Variables)	(Lancaster, 2022) の分類に基づき、5値 (初等教育卒業/高校卒業/職業学校卒業/大学等卒業/その他)に分類した。サンプル数が少ないことに起因して回帰分析で「その他」の係数が極端な値をとったため、図からは削除している。	初等:28.5% 高校:10.7% 職業:48.0% 大学:10.0% その他:2.8%

Online Appendix PRRPsの動員基盤

失業者	belbezig(Background Variables)	失業しているか否かで2値に分類した	失業:2.9% それ以外:97.1%
都市化程度	sted (Background Variables)	5 (最も都市化している) - 1 (全く都市化していない) の5点尺度で測定されている。2018年、2022年に測定法が変化している。	平均:3.0(sd = 1.31)
移民的背景	herkomstgroep(Background Variables)	移民一世・二世かどうかにより2値に分類した。	なし:85.0% あり:15.0%

AppendixC 補足分析 (CSES)

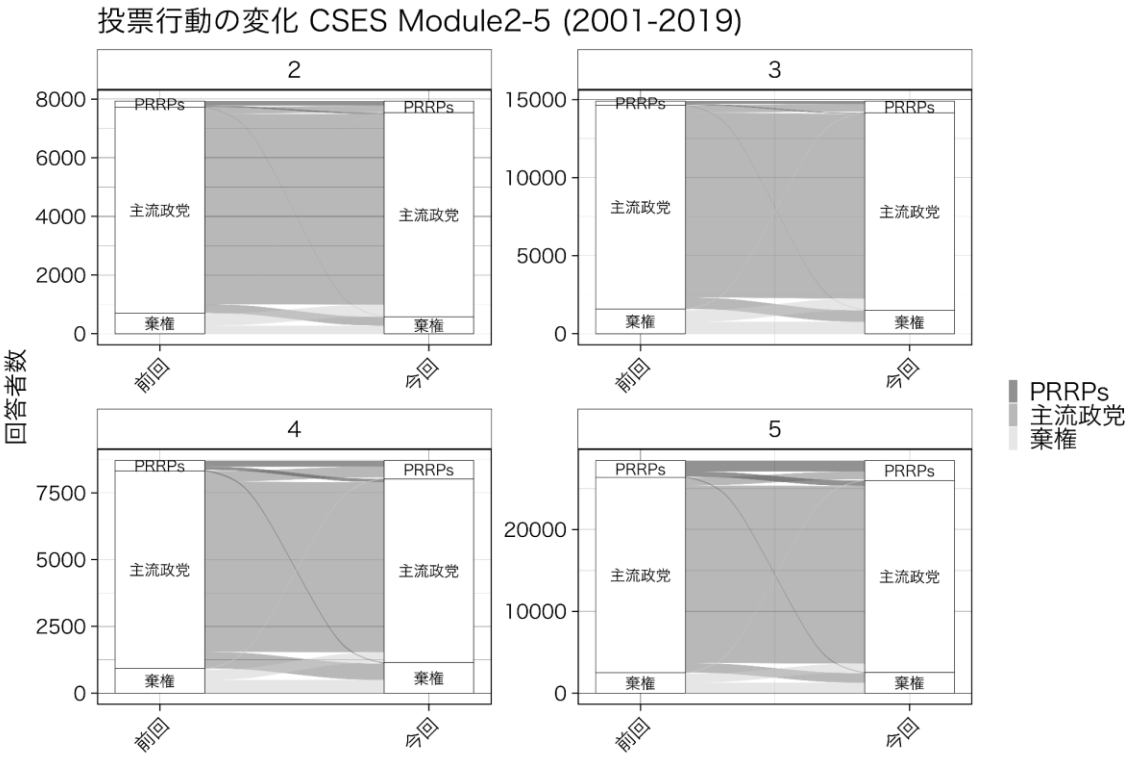
Appendix 図(1) 国別政党ファミリー別　新規獲得者に占める棄権者割合



Appendix図(2) 投票行動の変化(CSES2-CSES5)

Online Appendix PRRPsの動員基盤

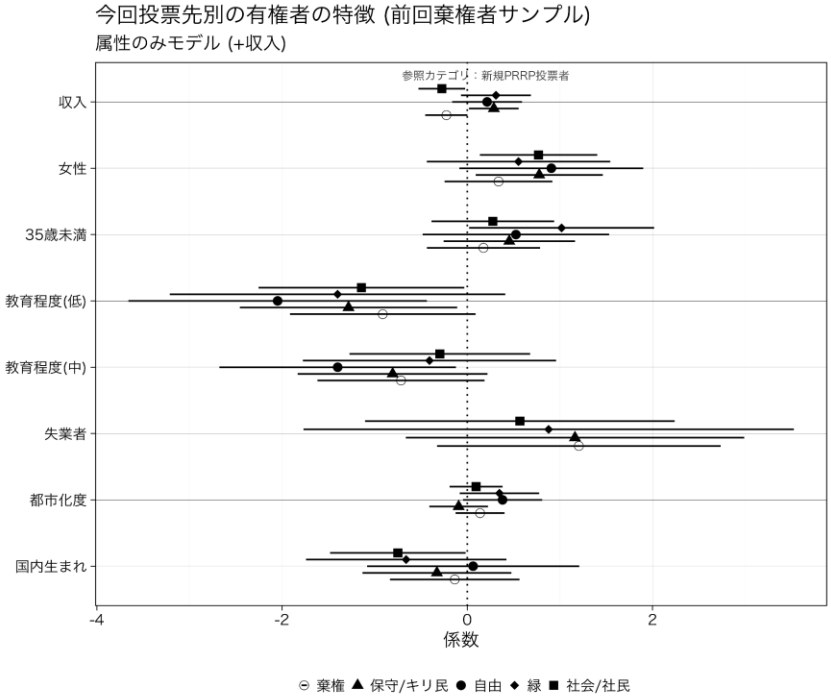
論文中図(1) より期間を拡張してCSES Module2-5 (2001-2019) における有権者の投票行動の変化を、Moduleの期間ごとに確認した。CSES Integrated Module Dataset (IMD) の2024年2月27日バージョンのデータをもとに分析を行った。PRRPsは、本文中の分析と同じくPopulistデータベースの定義を使用して操作化している。
どの期間においても、前回棄権し、今回PRRPsに投票した有権者の割合はごく僅かであった。



Appendix 図(3) 政党ファミリーごとの動員の傾向(社会的属性に収入をも含めたモデル)

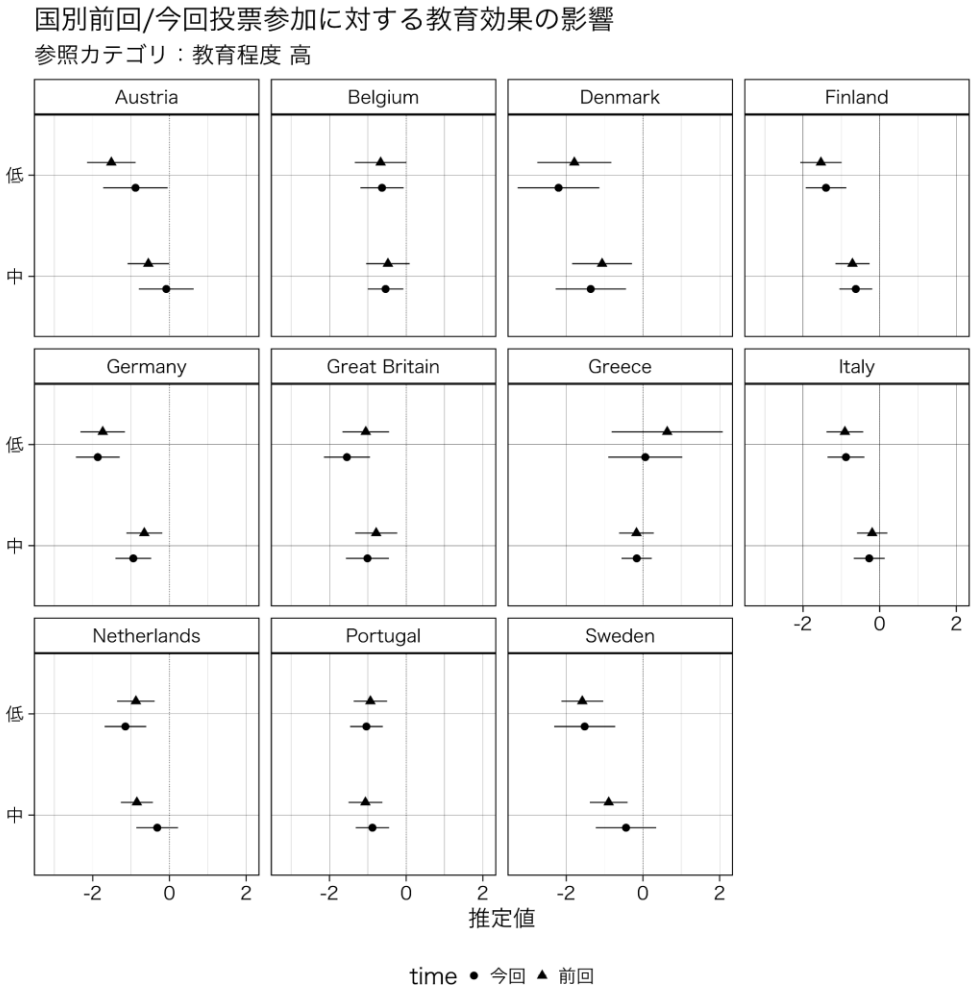
収入変数を含めた以外は論文中図2(B)の分析と同一の形で分析を行った。

Online Appendix PRRPsの動員基盤



Appendix図(4) 国別の教育程度に基づく投票率ギャップの推移

Online Appendix PRRPsの動員基盤

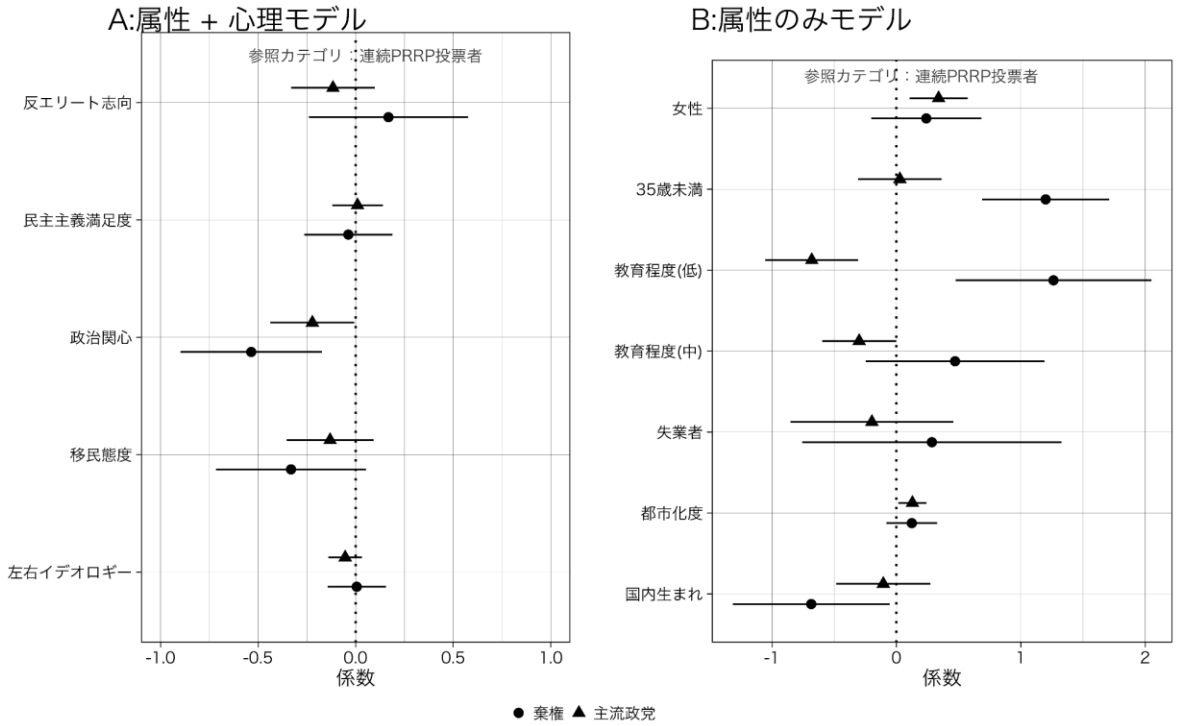


Appendix図(5) PRRPsの支持者内比較（元棄権者・主流政党からの流入者・連続投票者）

今回PRRPsに投票した参加者をサンプルとして、前回の投票先（棄権/主流政党/PRRPs)を目的変数（参照カテゴリ:前回PRRPsに投票)とした回帰分析を行っている。本分析でも、図2と同様に(1) 社会的属性（2) 社会的属性 + 心理 を説明変数に投入したモデルで分析した。図の上側は（1) モデルの分析結果を、図の下側は（2) モデルのうち心理変数のみの結果を示している。

Online Appendix PRRPsの動員基盤

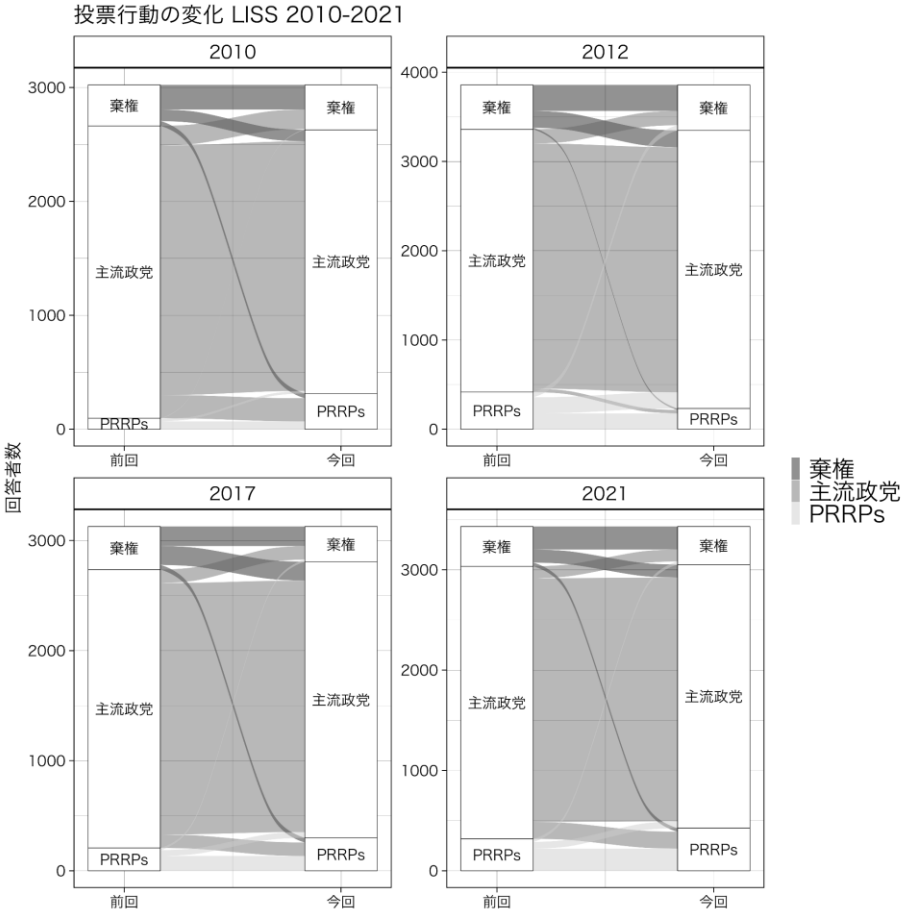
前回投票先別の有権者の特徴 (今回PRRPsサンプル)



AppendixD 補足分析 (LISS)

Appendix図(6) 投票行動の変化(LISS パネル)

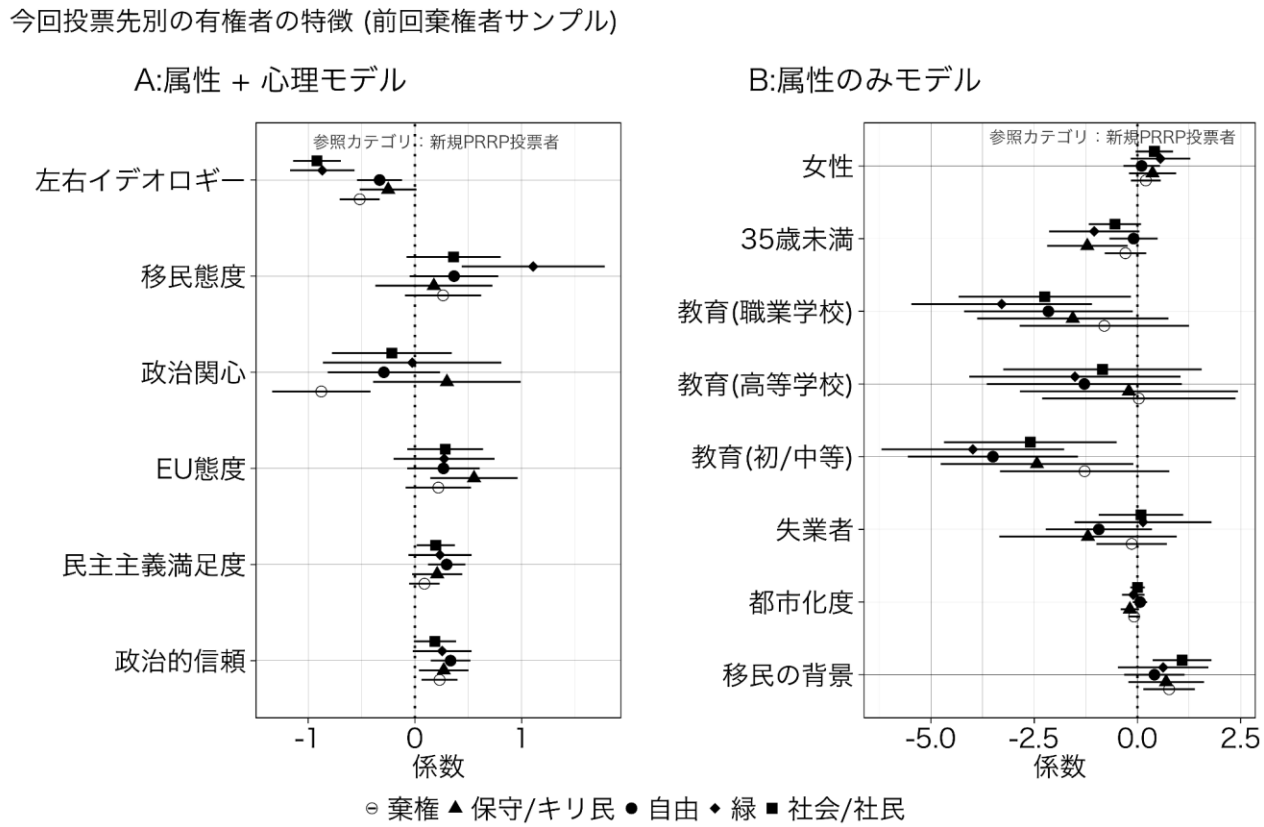
Online Appendix PRRPsの動員基盤



Appendix図(7) LISSパネルでの政党ファミリーごとの動員属性/心理分析

本分析でも本文中図2と同様に(1) 社会的属性 (2) 社会的属性 + 心理 を説明変数に投入したモデルで分析した。図の上側は (1) モデルの分析結果を、図の下側は (2) モデルのうち心理変数のみの結果を示している。

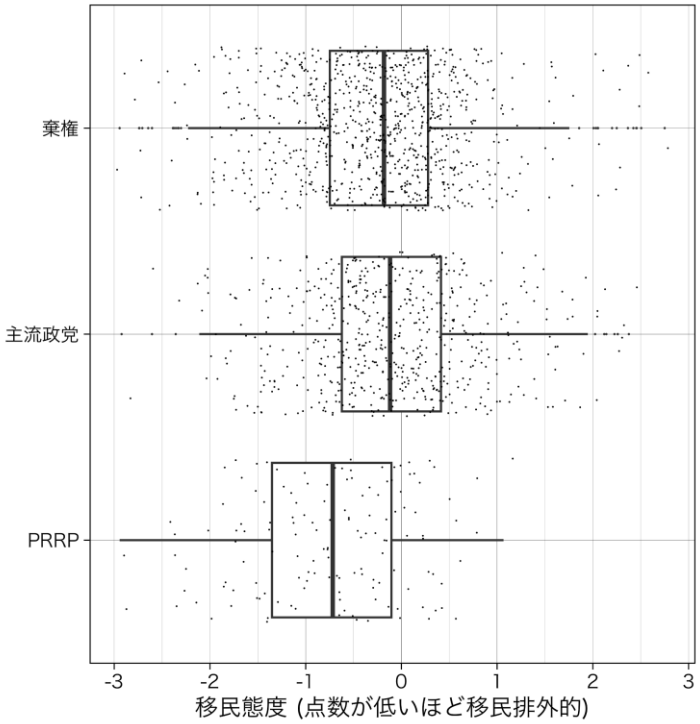
Online Appendix PRRPsの動員基盤



Appendix図(8) 前回棄権者の前回選挙時点での移民態度分布 (今回投票先別)

前回選挙で棄権した人をサンプルにして、前回選挙後に行われたwaveで測定された移民態度の分布を今回選挙での投票先 (PRRPs、主流政党、棄権) 別に図示している。今回棄権からPRRPsに移動した参加者は、前回時点ですでに、連続棄権者・棄権から主流政党に移動した参加者と比べて移民排外的な傾向が見られている。

Online Appendix PRRPsの動員基盤



AppendixE その他

Appendix 図 (9) 西欧諸国の棄権率/PRRPs得票率

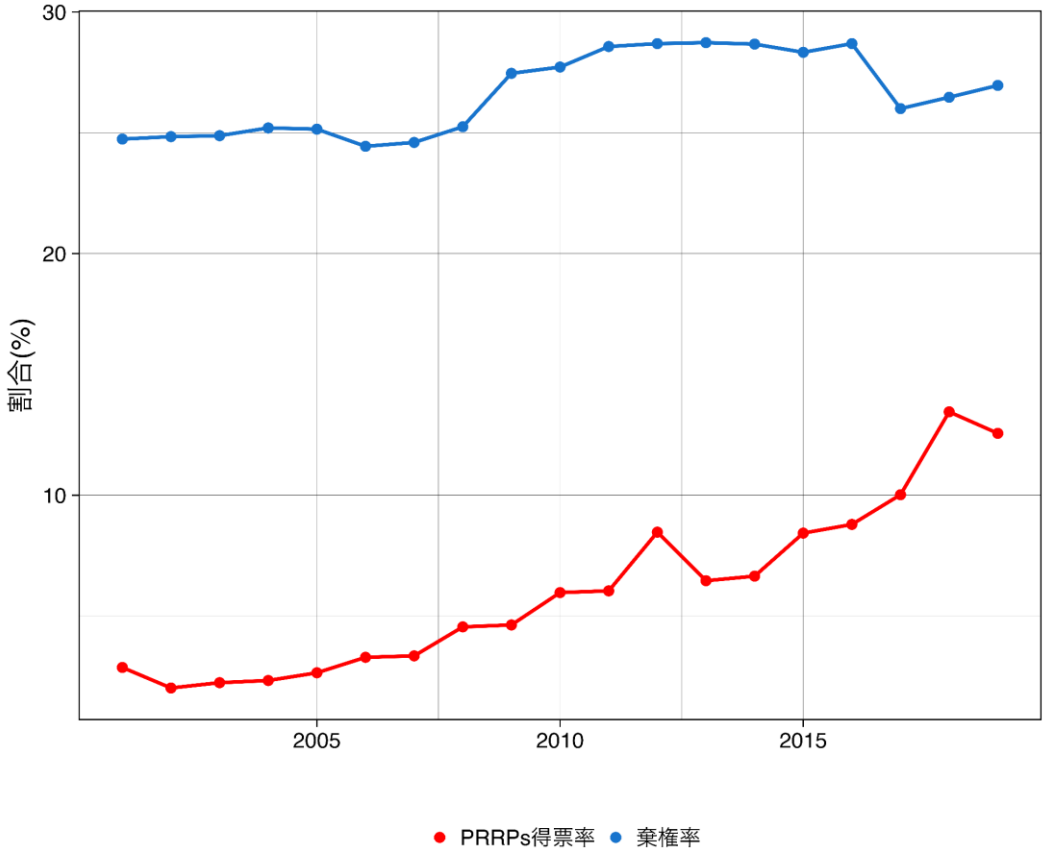
本文及び本Appendixで分析の対象にしている時期の西欧諸国 (分析で使用した11カ国)におけるPRRPsと棄権者という2つの陣営の割合を図示した。Rooduijn et al. (2023) を参考にして、西欧諸国全体に占める各国の人口を重み付けした平均値を作成した。PRRPs得票率はParlGov[4]とPopuList 3.0を元に算出し、棄権率は、The Global Dataset on Turnout Martínez i Coma & Leiva Van De Maele (2023) の'turnoutreg' (registered turnout percentage) 変数を100から引くことで算出した[5]。人口の重みづけは世界銀行のデータを使用している[6]。

[4] ParlGovデータは、以下のリンク (https://www.parlgov.org/)より取得できる。尚、2023年11月4日バージョンを使用した。

[5] データは以下のリンク (https://dataverse.harvard.edu/dataset.xhtml?persistentId=doi:10.7910/DVN/NYXHU9)より取得できる。

[6] World Bank Group. Population, total - European Union(https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.TOTL?locations=EU&view=map&year=2020) [最終閲覧日2024年7月16日]

Online Appendix PRRPsの動員基盤

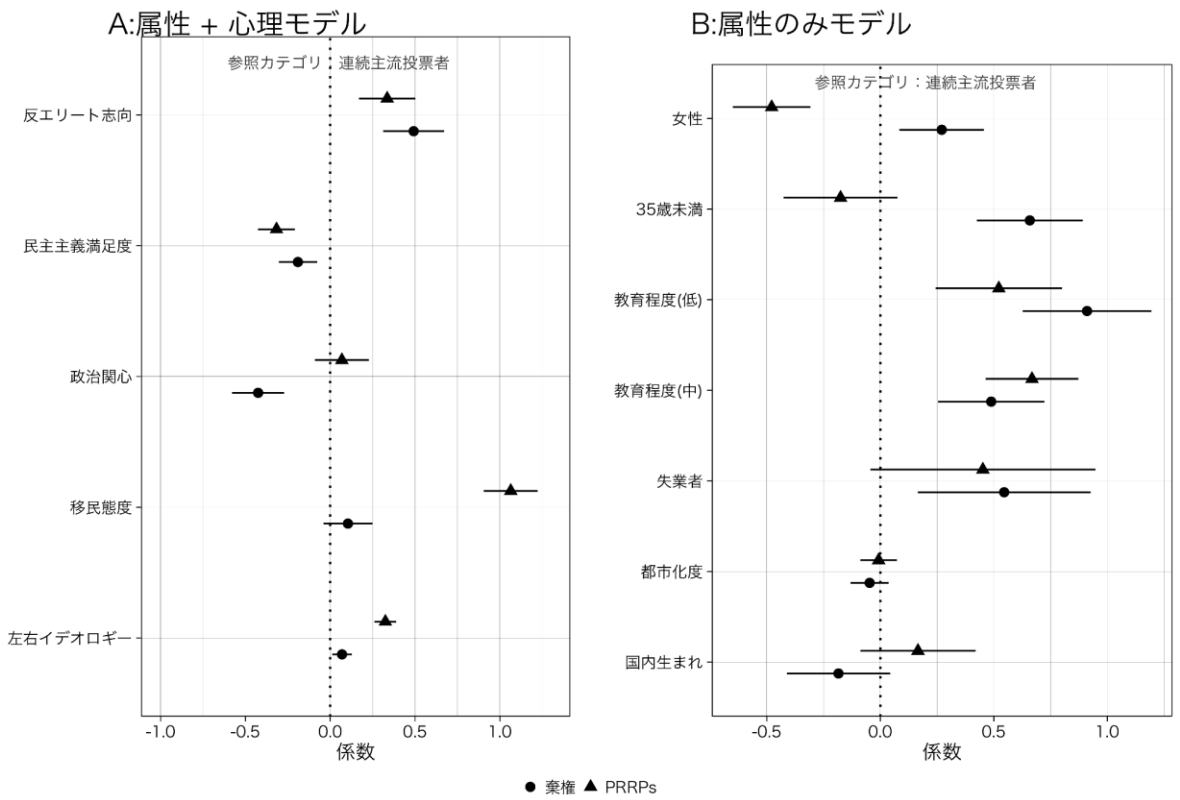


Appendix E 補足分析（CSES）

Appendix 図（10）前回主流政党投票者内比較（元棄権者・主流政党からの流入者・連続投票者）

前回主流政党に投票した参加者をサンプルとして、今回の投票先（棄権/主流政党/PRRPs）を目的変数（参照カテゴリ：今回主流政党に投票）とした回帰分析を行っている。本分析でも、図2と同様に(1) 社会的属性（2）社会的属性 + 心理 を説明変数に投入したモデルで分析した。図の上側は（1）モデルの分析結果を、図の下側は（2）モデルのうち心理変数のみの結果を示している。

Online Appendix PRRPsの動員基盤



参考文献

Geurkink, B., Zaslove, A., Sluiter, R., & Jacobs, K. (2020). Populist Attitudes, Political Trust, and External Political Efficacy: Old Wine in New Bottles? *Political Studies*, *68*(1), 247-267.

Lancaster, C. M. (2022). Value Shift: Immigration Attitudes and the Sociocultural Divide. *British Journal of Political Science*, *52*(1), 1-20.

Martínez i Coma, F., & Leiva Van De Maele, D. (2023). The Global Dataset on Turnout (GD-Turnout). *Electoral Studies*, *86*, 102681.

Rooduijn, M., Pirro, A. L. P., Halikiopoulou, D., Froio, C., Van Kessel, S., De Lange, S. L., Mudde, C., & Taggart, P. (2023). The PopuList: A Database of Populist, Far-Left, and Far-Right Parties Using Expert-Informed Qualitative Comparative Classification (EiQCC). *British Journal of Political Science*, 1-10.

Scherpenzeel, A. C., & Das, M. (2010). “True” longitudinal and probability-based Interne

t panels: Evidence from the Netherlands. In M. Das, P. Ester, & L. Kaczmirek (Eds.), *Social and Behavioral Research and the Internet: Advances in Applied Methods and Research Strategies* (pp. 77-104). Taylor & Francis.